

激変する環境を乗り越え収益改善を図る

—14／3第2四半期の実績と通期見込—

(2871)

株式会社ニチレイ

【お問合せ先】

財務IR部 田中 久

TEL: 03-3248-2167

E-mail: tanakah@nichirei.co.jp

URL: <http://www.nichirei.co.jp/ir/index.html>

目次

【連結業績サマリー】

上期は円安影響を受けるが、下期より打ち手の効果が本格化する 1

【加工食品事業】

販売は好調に推移。下期はコスト吸収策が奏功し利益は回復基調へ 2

コスト吸収策の進捗の遅れはあるが、年度内には施策は完了する 3

需要拡大を追い風に国内での生産体制の最適化を推進する 4

米国で伸長するアジアフード市場で成長拡大を図る 5

付表 6

【水産・畜産事業】

下期は畜産の収益改善に向けた立て直しに注力する 7

【低温物流事業】

堅調な物流ネットワークと海外を軸に通期業績を達成する 8

東京・大阪と地方それぞれの状況に応じた最適化を進める 9

東京・大阪圏の底堅い需要を背景に設備増強を進める 10

地方では既存顧客をベースに輸配送でも密着営業を展開する 11

付表 12

【参考資料】

データ集 13～17

注:

- ① 当資料のグラフ・表などで表示されている数値は、別途断り書きがある場合を除き、金額単位表示未満は四捨五入し一部で端数調整のため切り上げ・切り捨てを行っている。
- ② 「前回見込」は2013年7月30日に発表した見込を、「E」、「見込」は2013年10月29日に発表した今期の見込を示している。

上期は円安影響を受けるが、下期より打ち手の効果が本格化する

単位: 億円

		第2四半期(累計)					第3・四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
	加工食品	1,005	99	11%	990	15	1,040	105	11%	1,010	30	2,045	205	11%	2,000	45
	水産	345	32	10%	330	15	325	1	0%	336	-11	670	33	5%	666	4
	畜産	375	9	2%	371	4	386	-3	-1%	369	17	761	6	1%	740	21
	低温物流	833	51	6%	807	26	829	48	6%	809	20	1,662	98	6%	1,616	46
	不動産	24	1	5%	23	1	25	0	2%	25	-0	49	2	3%	48	1
	その他	15	-12	-45%	14	1	21	-9	-31%	22	-1	36	-22	-38%	36	0
	調整額	-95	6	-	-93	-2	-93	5	-	-93	-0	-188	12	-	-186	-2
	売上高合計	2,502	186	8%	2,442	60	2,533	148	6%	2,478	55	5,035	334	7%	4,920	115
	加工食品	10	-20	-67%	15	-5	36	6	20%	43	-7	46	-14	-24%	58	-12
	水産	1	2	-	2	-1	2	-0	-3%	2	0	3	2	324%	4	-1
	畜産	-2	-4	-	-1	-1	2	-1	-40%	4	-2	0	-5	-	3	-3
	低温物流	44	2	6%	40	4	41	-3	-7%	43	-2	85	-1	-1%	83	2
	不動産	12	0	4%	11	1	11	-0	-2%	12	-1	23	0	1%	23	0
	その他	1	-1	-61%	1	-0	3	1	23%	3	0	4	-0	-7%	4	0
	調整額	-0	1	-	-3	3	-1	-3	-	-2	1	-1	-1	-	-5	4
	営業利益合計	66	-19	-22%	65	1	94	-0	-0%	105	-11	160	-19	-11%	170	-10
	経常利益	62	-20	-24%	62	0	84	-6	-7%	100	-16	146	-26	-15%	162	-16
	当期純利益	42	-21	-34%	42	-0	45	10	28%	58	-13	87	-11	-11%	100	-13
		ROE	7.1%	-1.1%			8.2%	-1.1%								
		EPS	30円	-3円	-9%		35円	-5円								

◆上期の状況

1. 売上高
主力の加工食品と低温物流に加え水産も伸長し、全体でも増収。
2. 営業利益
円安コスト増の影響が先行する加工食品と畜産の減益が大きく響く。
3. 経常利益・当期純利益
当期純利益は営業利益の減少を受け減益。

◆通期の状況

1. 売上高
下期も引き続き加工食品と低温物流が牽引。通期でも増収を見込む。
2. 営業利益
下期はコスト吸収策寄与が本格化する加工食品が好転するも低温物流の償却負担影響で全体では前年並。通期では上期の影響が重く減益。
3. 経常利益・当期純利益
当期純利益は前年下期の減損影響がなくなるが、上期の影響が大きく減益。

加工食品事業

販売は好調に推移。下期はコスト吸収策が奏功し利益は回復基調へ

		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
加工食品	売上高 計	1,005	99	11%	990	15	1,040	105	11%	1,010	30	2,045	205	11%	2,000	45
	家庭用調理品	279	16	6%	275	4	296	16	6%	292	4	575	32	6%	567	8
	業務用調理品	441	31	7%	421	20	473	38	9%	447	26	914	69	8%	868	46
	健康価値	20	-5	-21%	25	-5	22	6	36%	24	-2	42	1	2%	49	-7
	その他	265	57	28%	269	-4	249	45	22%	247	2	514	103	25%	516	-2
	営業利益	10	-20	-67%	15	-5	36	6	20%	43	-7	46	-14	-24%	58	-12

◆上期の状況

- 調理冷凍食品の販売は引き続き好調に推移。
 - ①家庭用調理品:主力のチキン加工品、米飯類が引き続き好調に推移。
 - ②業務用調理品:主力のチキン加工品、春巻が引き続き好調に推移。
 - ③その他:前年度のイノバジアン・クイジーン社の買収などにより増収。
- 営業利益は円安による原材料・仕入コスト増が先行し前年比で大幅減益。

◆通期の状況

- 下期以降も販売は好調に推移する見込。
 - ①家庭用調理品:消費者キャンペーンなどを通じ主力商品の拡販を図る。
 - ②業務用調理品:主力のチキン加工品や春巻を引き続き拡販する。
 - ③その他:販売が好調なイノバジアン・クイジーン社が増収に寄与。
- 営業利益は下期から価格改定等の施策の効果が本格的に現れ増益基調へ。施策の進捗は計画に比べ遅れが出ているが今期中には完了の見込。

コスト吸収策の進捗に遅れはあるが、年度内には施策は完了する

加工食品営業利益の対前年比増減要因

単位: 億円

	第2四半期(累計)		第3・4四半期(累計)		通期	
	実績	1Q時点 想定比	見込	1Q時点 想定比	見込	1Q時点 想定比
13/3期 営業利益	30	-	30	-	60	-
減益要因	-44	-2	-44	-1	-88	-3
円安による原材料・仕入コストの上昇	-36	-1	-35	0	-71	-1
原材料・仕入コストの上昇	-8	-1	-9	-1	-17	-2
増益要因	24	-3	50	-6	74	-9
価格改定などによるコスト吸収策	4	-2	26	-4	30	-6
商品ミックスの改善など	2	-2	7	-2	9	-4
GFPTニチレイの業績改善	8	2	4	0	12	2
増収効果	5	1	5	1	10	2
生産性改善	3	0	3	0	6	0
固定費の削減	1	-1	3	0	4	-1
その他	1	-1	2	-1	3	-2
14/3期 営業利益	10	-5	36	-7	46	-12

◆上期の状況

- 原材料・仕入コストの上昇が響き大幅減益。価格改定等の吸収策にも着手するが、追加のコスト増に加え対応の遅れもあり見込を下回った。
1. チキン加工品を中心とした畜肉製品の円安によるコスト増に加え、米や包装資材のコストも追加で上昇。
 2. 価格改定や不採算商品の見直しなどのコスト吸収策に遅れが出たことで効果は見込を下回った。
 3. GFPTニチレイは前年の減損による減価償却負担の軽減やタイ国内の鶏肉(生肉)相場の上昇などにより大きく改善。

◆通期の状況

- 下期は引き続き原材料・仕入コスト増の影響を受けるが、価格改定等の効果が本格化する見込。通期では上期のマイナスが大きく響き減益。
1. 下期から家庭用調理品の価格改定等の効果が本格化。
 2. 業務用調理品は価格改定等の進捗に遅れが出ているが年度内には施策は完了。
 3. GFPTニチレイは第3加工ラインの本格稼働やスローターラインの自動化により収益性が改善。

需要拡大を追い風に国内での生産体制の最適化を推進する

国内自営工場 設備投資の概要

単位: 億円

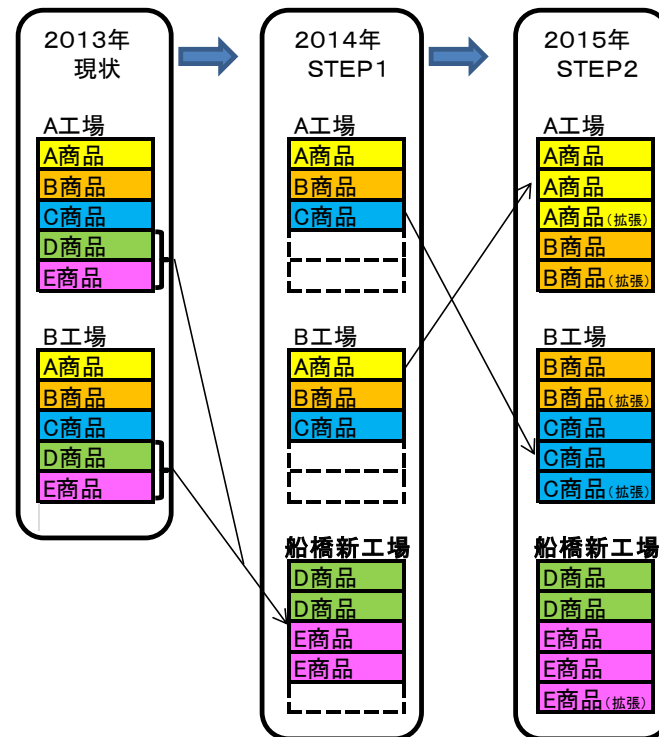
投資額	増収額 (16/3)	増益額 (16/3)	増益額内訳(16/3)		
			増収効果	集約・ 効率化	償却負担
100	48	14	14	10	▲10

国内自営投資工場設備能力16万t(13/3)→17.5万t(16/3)

船橋第二工場(仮称)



生産拠点毎の商品生産集約化(イメージ図)



船橋市に新工場を設立(来年3月稼働予定)。生産集約化のためのスペースを一旦生み出し、これを起点に国内での家庭用調理品を中心とした生産拠点の最適配置を進める。

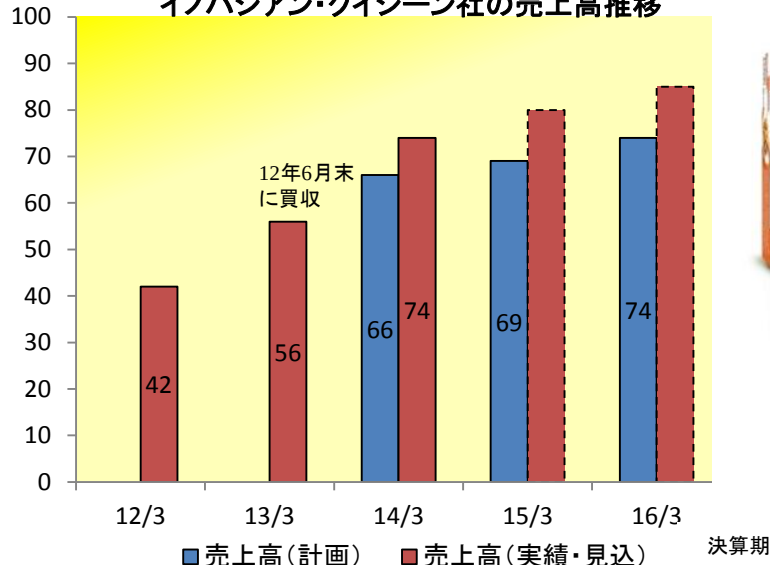
1. ライン増設による生産能力の拡充を通じ、これまで対応しきれなかった需要の取込を図る。
2. 拠点毎に主力商品の生産を集約し、スケールメリットを活かした少品種大量生産で製造コストの低減を図るとともに、ラインの刷新や配置見直しにより生産効率化を図る。

米国で伸長するアジアンフーズ市場で成長拡大を図る

おいしい瞬間を届けたい **Nニチレイ**

売上高: 百万ドル

イノバジアン・クイジーン社の売上高推移



市販用商品



業務用惣菜

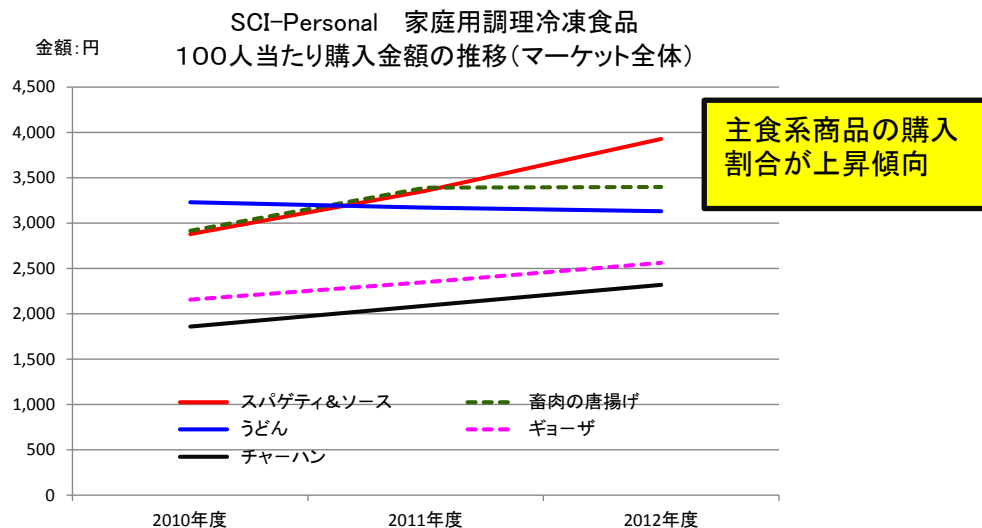
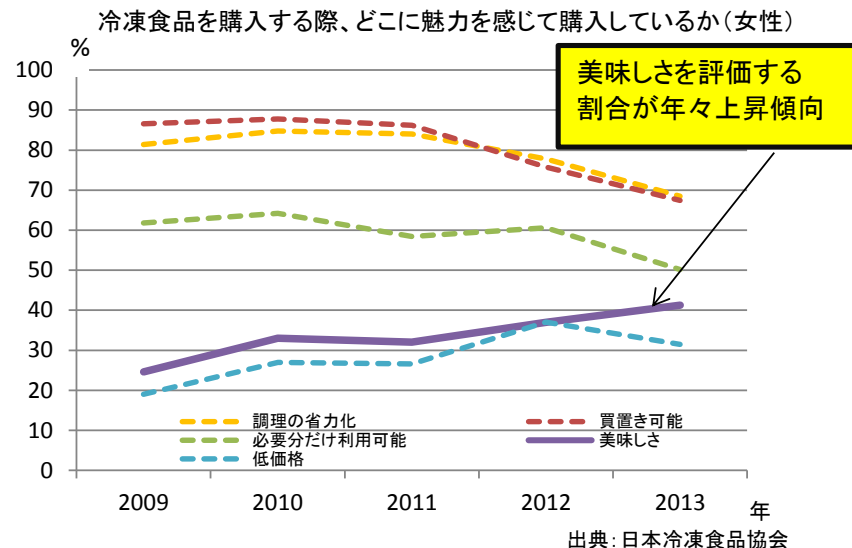
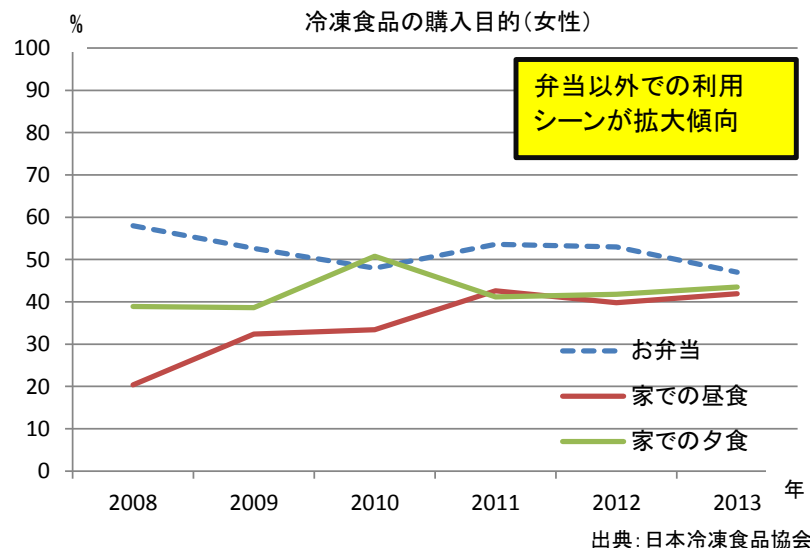


アジアンフーズは健康志向の白人向けニッチ市場から一般大衆向けに拡がりを見せる成長著しいカテゴリーの一つ。

1. イノバジアン・クイジーン社は、これまでに培った大手量販店向けの販路や商品企画・提案力の強みを活かしアジアンフーズ市場で年々拡大。
2. 業務用惣菜では売場に応じたメニュー・調理オペレーションの提案など、ミールソリューションの支援を通じ成長拡大。
3. 今期は売上高74億円、営業利益3億円を見込む。

付表

世帯構成や生活行動の変化などに加え、冷凍食品そのものの利用シーンの拡大や美味しさの向上などにより需要は拡大基調。特に米飯や麺類など主食系が伸長。



水産・畜産事業

下期は畜産の収益改善に向けた立て直しに注力する

おいしい瞬間を届けたい **Nニチレイ**

単位：億円（単位未満四捨五入、一部で端数調整あり）

		第2四半期（累計）					第3・4四半期（累計）					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
水産	売上高	345	32	10%	330	15	325	1	0%	336	-11	670	33	5%	666	4
	営業利益	1	2	-	2	-1	2	-0	-3%	2	0	3	2	324%	4	-1
畜産	売上高	375	9	2%	371	4	386	-3	-1%	369	17	761	6	1%	740	21
	営業利益	-2	-4	-	-1	-1	2	-1	-40%	4	-2	0	-5	-	3	-3

【水産】

- 1.上期は店頭価格の値頃感により需要が復調したタコ、相場が上昇したエビ・鮭・鰯の収益が寄与。
- 2.下期は得意先との取組による年末商材の買付と期間内の販売徹底により利益を確保する一方で、相場が上昇したエビは各業態得意先と調達先の動向に注意し、通期で増収増益を見込む。

【畜産】

- 1.上期はビーフ、ポークの単価アップで売り上げを伸ばしたが、円安による全般的な仕入コスト上昇の影響を販売価格に転嫁しきれず減益に。
- 2.下期は、年初より交渉の価格改定効果や物流費（保管・配送）等のコスト削減などで、通期での黒字化を目指す。
- 3.最適加工商品で国産チキンや輸入ビーフ、ポークの新規商品開発・拡販を進めると共に、調達面では国産ポークの仕入方式改定や輸入品調達先の新規開拓で柔軟な体制を構築する。

低温物流事業

堅調な物流ネットワークと海外を軸に通期業績を達成する

おいしい瞬間を届けたい **Nニチレイ**

今回 1Q時点
見込 想定比

単位: 億円

		第2四半期(累計)					第3・4四半期(累計)					通期				
		実績	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比		見込	前年同期間比		前回見込比	
			増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減		増減	率	前回見込	増減
低温	売上高 計	833	51	6%	807	26	829	48	6%	809	20	1,662	98	6%	1,616	46
	国内小計	699	14	2%	688	11	676	6	1%	679	-3	1,375	20	1%	1,367	8
	物流ネットワーク	456	11	3%	444	12	448	8	2%	441	7	904	20	2%	885	19
	地域保管	243	3	1%	244	-1	228	-3	-1%	238	-10	471	-0	0%	482	-11
	海外	126	33	35%	114	12	132	36	38%	117	15	258	69	37%	231	27
	その他・共通	8	4	93%	5	3	21	6	37%	13	8	29	10	49%	18	11
物流	営業利益 計	44	2	6%	40	4	41	-3	-7%	43	-2	85	-1	-1%	83	2
	国内小計	41	-2	-5%	39	2	38	-3	-8%	39	-1	79	-5	-6%	78	1
	物流ネットワーク	18	-1	-8%	16	2	17	-2	-9%	17	-0	35	-3	-8%	33	2
	地域保管	22	-1	-3%	23	-1	22	-2	-7%	22	-0	44	-2	-5%	45	-1
	海外	6	2	58%	4	2	4	1	16%	5	-1	10	3	39%	9	1
	その他・共通	-3	2	-	-3	0	-1	-0	-	-1	-0	-4	2	-	-4	0

13/3期 営業利益	86	-
減益要因	-10	-2
新增設に伴う償却増影響	-4	-
電力料増	-5	-1
輸配送コスト増	-1	-1
増益要因	9	4
運送事業効率化	2	1
新增設に伴う利益増	1	-
業務改善効果	4	2
為替影響	2	1
14/3期 営業利益見込	85	2

【国内】

- 1.上期は物流ネットワークが好調に推移し、国内全体でも前回見込を上回る。
- 2.下期は東扇島DC増設による償却負担に加え円安による輸入量減や輸配送コスト上昇の影響を見込むが、通期では計画線で推移する見込み。

【海外】

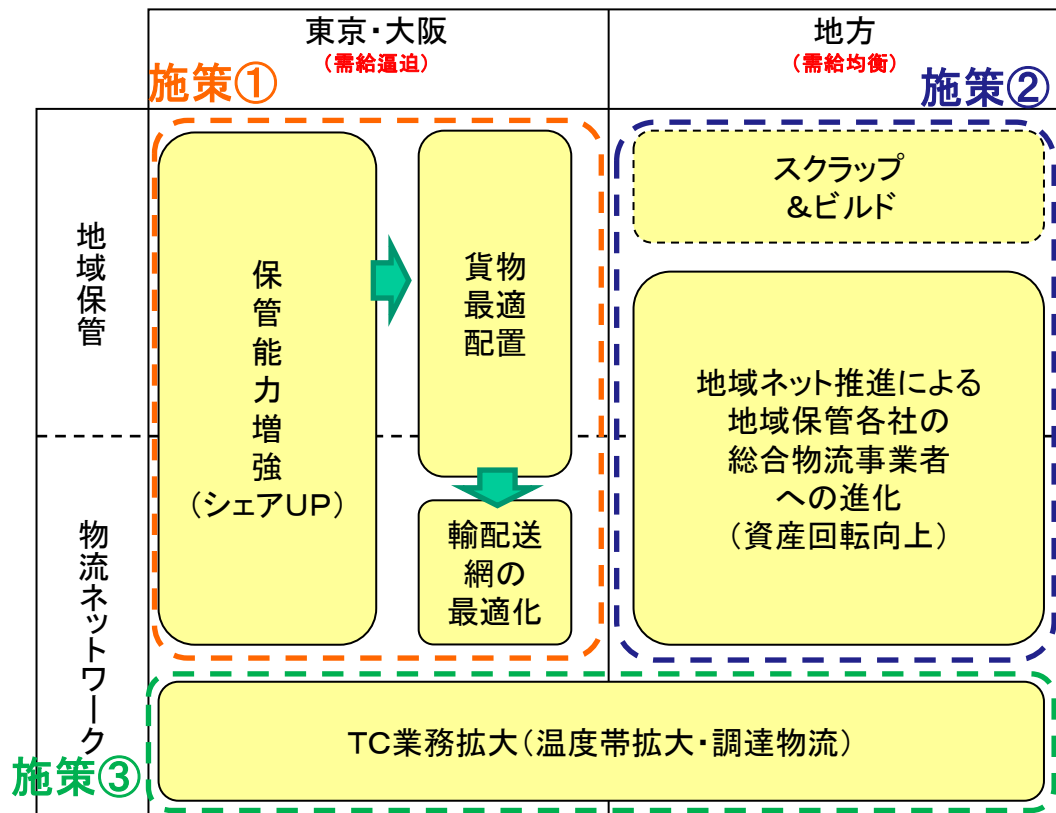
- 1.上期は欧州では厳しい環境下ながら個々の会社で着実に貨物の獲得を進めており、現地通貨ベースでも増収増益。(P12の付表参照)
- 2.下期は苦戦する一部子会社の新規顧客獲得やグループ会社間の連携強化で更なる集荷拡大を図る。

* 今期より地域保管と物流ネットワークの輸配送業務移管にともない、セグメント間での入り繰りが発生している。
低温物流事業全体では影響はない。

【国内戦略】東京・大阪と地方それぞれの状況に応じた最適化を進める

おいしい瞬間を届けたい **Nニチレイ**

<国内事業 中期経営計画のポイント>



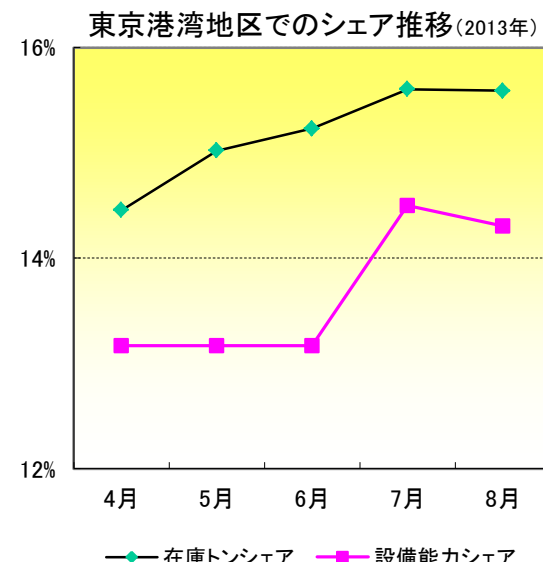
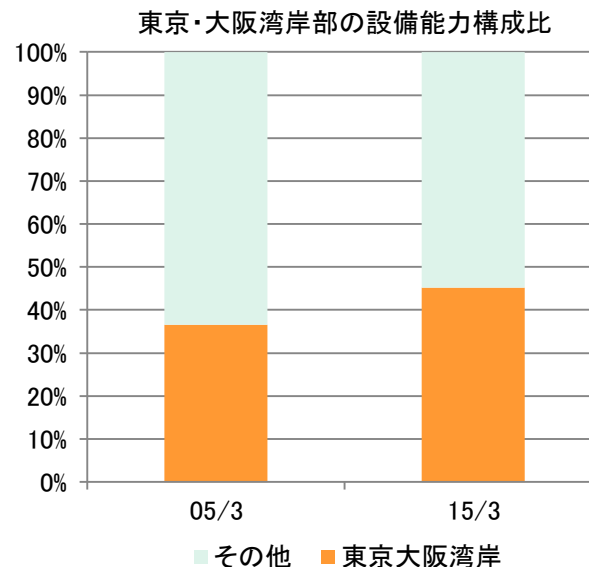
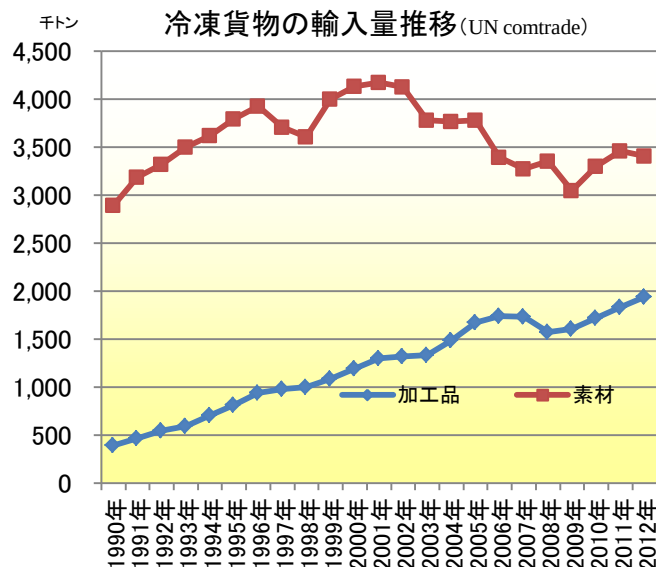
施策① 今後も強い需要の見込める東京・大阪では設備投資によるシェア拡大と業務最適化を進める。

施策② 需給が均衡している地方では別個に運営していた保管と輸配送を統合し、より効率的な運営を図ると共に、産地発貨物の取扱拡大で東京・大阪の輸配送網との相乗効果を目指す。

施策③ TC事業は温度帯の拡大や調達物流への対応による既存拠点の取扱拡大を進める。

東京・大阪圏の底堅い需要を背景に設備増強を進める

おいしい瞬間を届けたい **Nニチレイ**



施策①-1 需給が逼迫する東京・大阪圏での設備能力増強

1. 東扇島DC二期棟と川崎DCの営業開始、大阪咲洲DCの建設はいずれも計画通り進捗。
2. 東京・大阪港湾部の需給逼迫には、立地（輸入港、大消費地近隣）と輸入加工食品の増加が影響。
 - ①立地優位性: 通関利便性、運送費用面でのコスト優位性
 - ②加工品増加: 素材品に比べて嵩高、完成品で再加工不要（消費地保管）
3. 東扇島DC二期棟は旺盛な需要を受け順調に集荷、再保管分の引き戻しによるコスト圧縮も進む。

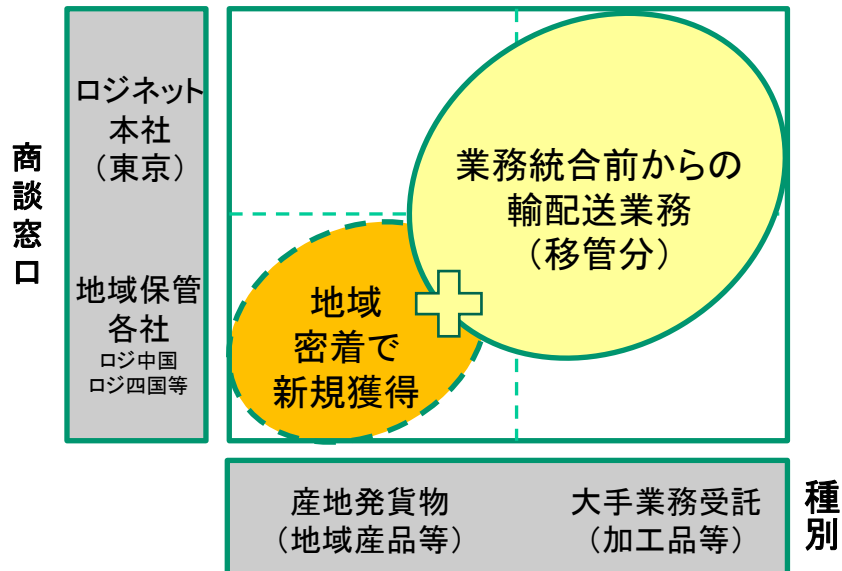
施策①-2 東京圏の輸配送最適化

9月に輸配送業務の一部を、貨物が集中する船橋から能力を増強した東扇島へ移行。
今後も既存拠点（船橋、品川）との業務再配置を進め、東京圏全体の効率向上と取扱量拡大を図る。

地方では既存顧客をベースに輸配送でも密着営業を展開する

おいしい瞬間を届けたい **Nニチレイ**

地方の輸配送拠点での顧客開拓イメージ



業務移管による売上高への影響

(億円)

	14/3	15/3	16/3
地域保管売上高	471	538	576
うちネットからの 輸配送移管額	9	52	82
うち統合による 相乗効果	6	13	22
移管開始エリア	中国 四国	北海道 東北	東海

施策②地域会社の総合物流事業者への進化

中四国エリア地域会社での輸配送業務統合は計画通りスタート。

地域密着営業により新しい組織が目指すものは、

1. 冷蔵倉庫荷主の運送需要の獲得
2. 産地発貨物の獲得による幹線輸送便の往復利用拡大
3. 幹線輸送効率化によるコスト競争力強化で更なる取扱拡大

施策③TC取組拡大

新規受託TC(九州)は予定通り今秋よりスタート。

次年度以降のTC案件については3件交渉中。

付表

欧州事業の状況

会社名	事業内容	立地	設備能力	14/3期 売上高見込 (百万ユーロ)	前年比	各社の状況
Eurofrigo ユーロフリゴ (EFR)	冷蔵倉庫	オランダ(ロッテルダム2拠点、 フェンロ2拠点、ルールモンド)	581,250m ³ 232,500 t	26	102%	畜肉を中心に取扱は安定して推移。
Hiwa Rotterdam port Cold Stores ヒワ ロッテルダム ポート コールド ストアーズ (HIWA)	冷蔵倉庫	オランダ(ロッテルダム)	393,125m ³ 157,250 t	27	117%	果汁の消費低迷は続くが、新規貨物の獲得により伸長。
Thermotrafic Holland テルモトラフィック オランダ (TTH)	運送(備車) フォワーディング	オランダ(ロッテルダム、フェンロ) ベルギー(アントワープ)	—	29	94%	一部顧客の取扱が減少。価格競争も激化。 新規顧客開拓やTTG・HIWAとの連携強化で回復を図る。
Thermotrafic Germany テルモトラフィック ドイツ (TTG)	運送(備車) フォワーディング	ドイツ(ハンブルグ他) フランス(アラス) イギリス(ルートン)	—	82	114%	運送・フォワーディングともに取扱拡大により伸長。
Frigo Logistics フリゴロジスティクス (FLP)	冷蔵倉庫 運送(備車)	ポーランド(ズニン、ラドムスコ)	173,750m ³ 69,500 t	16	102%	TC顧客の取扱が堅調に推移。ボイスピッキングやフローラックの活用が定着し、効率化も進展。
Godfroy ゴドフロア (GFR)	冷蔵倉庫 自社運送	フランス(カルピケ、コロンベール、 ルアーブル)	98,800m ³ 39,520 t	22	101%	景気低迷による売上減少を新規顧客獲得でカバー。
			1,246,925m ³ 498,770 t			

参考資料

2014年3月期第2四半期 連結バランスシートの変動要因

単位：億円(未満切り捨て)

科目	13/9	13/3	増減	
〔資産の部〕				
流動資産	1,331	1,238	93	①
固定資産	1,820	1,740	79	②
資産の部合計	3,152	2,979	173	
〔負債・純資産の部〕				
流動負債	927	1,006	△79	③
固定負債	914	718	196	③
負債の部合計	1,842	1,725	116	
純資産の部	1,310	1,253	56	④
(うち株主資本)	1,215	1,188	27	
有利子負債	1,044	968	75	
(うちリース債務除く)	834	754	80	
科目	13/9	12/9	増減	
設備投資額	122	43	79	⑤
(うちリース資産除く)	107	31	75	
減価償却費	70	70	△0	
(うちリース資産除く)	51	51	0	

【主な要因】

- ① 売上債権+19、たな卸資産+70
(売上増加と季節的要因)
- ② 有形固定資産+71(主力事業の収益
基盤拡大に向けた設備投資の実施)
- ③ 短期借入金△70、コマーシャル
ペーパー△50、社債+100、長期
借入金+101(長期の安定資金確保)
- ④ 利益剰余金+27、その他の包括
利益累計額合計+20
- ⑤ 設備投資の主な内訳
加工食品
船橋第二(仮称)工場 土地など
GFPTニチレイ 生産設備増設
低温物流
東扇島DC2期棟 物流センター増設

2014年3月期第2四半期 営業外収支・特別損益の変動要因

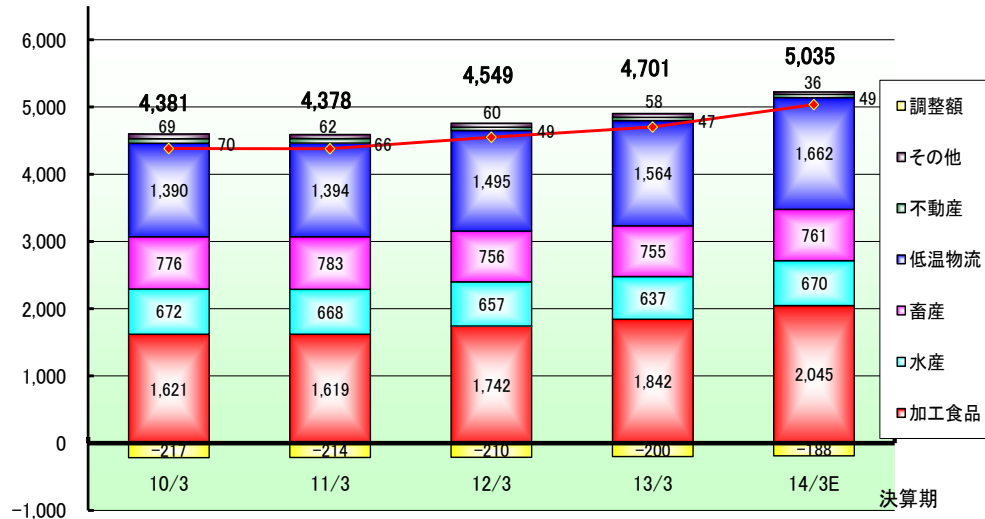
単位: 億円 (未満切り捨て)

プラス表示は利益を示す		第2四半期累計			プラス表示は利益を示す		通 期		
		13/9	12/9	増減			見込	13/3	増減
【営業外収支】		-3	-2	-1	【営業外収支】		-14	-7	-6
(主要項目)					(主要項目)				
金融収支		-1	-3	2	金融収支		-7	-8	1
【特別損益】		9	11	-1	【特別損益】		10	-36	46
(主要項目)					(主要項目)				
固定資産売却益		0	4	-3	固定資産売却益		1	4	-3
投資有価証券売却益		14	10	3	投資有価証券売却益		16	10	5
固定資産売却損・除却損		-4	-1	-2	固定資産売却損・除却損		-6	-3	-2
減損損失		-0	—	-0	減損損失	①	-0	-46	45

①GFPTニチレイの固定資産の減損など

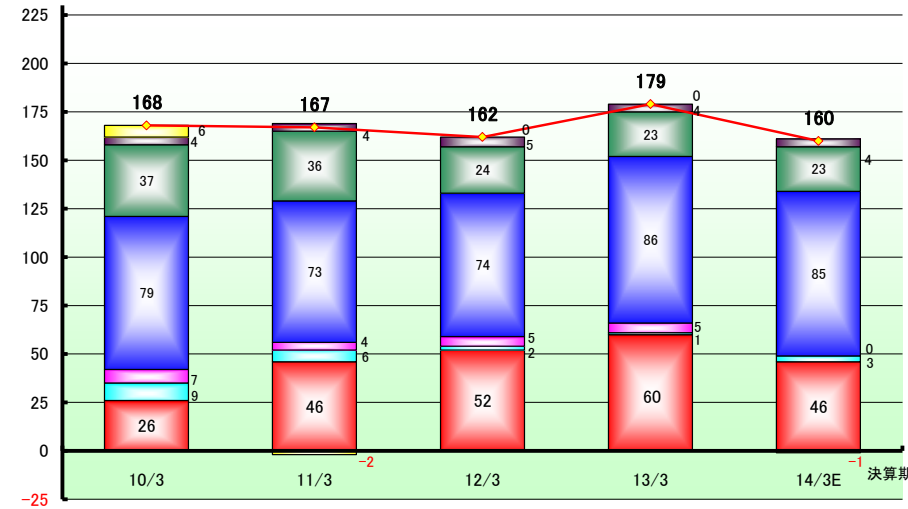
セグメント別売上高の推移

単位:億円



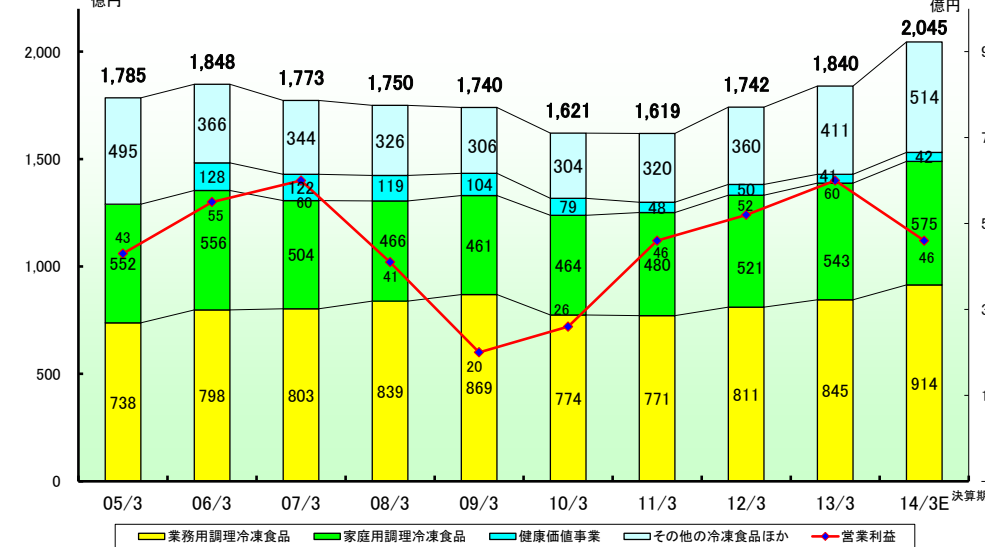
セグメント別営業利益の推移

単位:億円



加工食品事業の売上高・営業利益推移

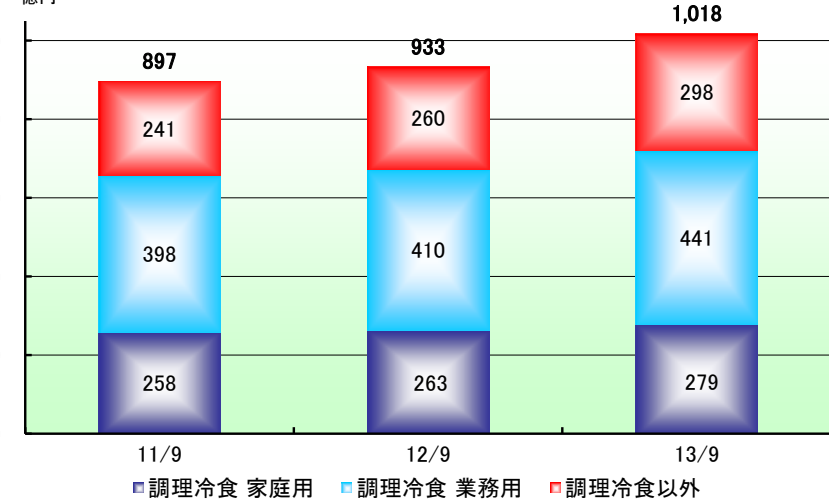
億円



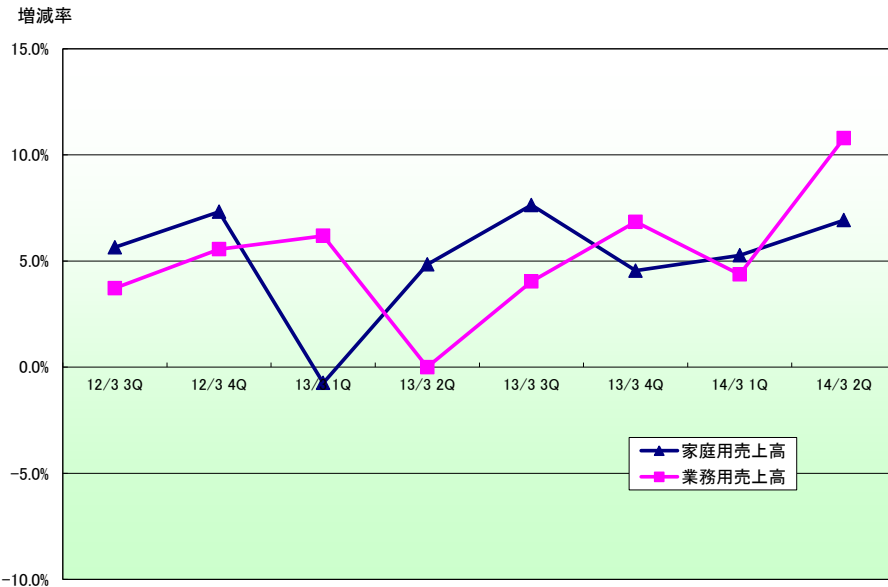
冷凍食品売上高の推移

(日本冷凍食品協会定義にもとづき、加工食品のほか水産畜産の売上も含む)

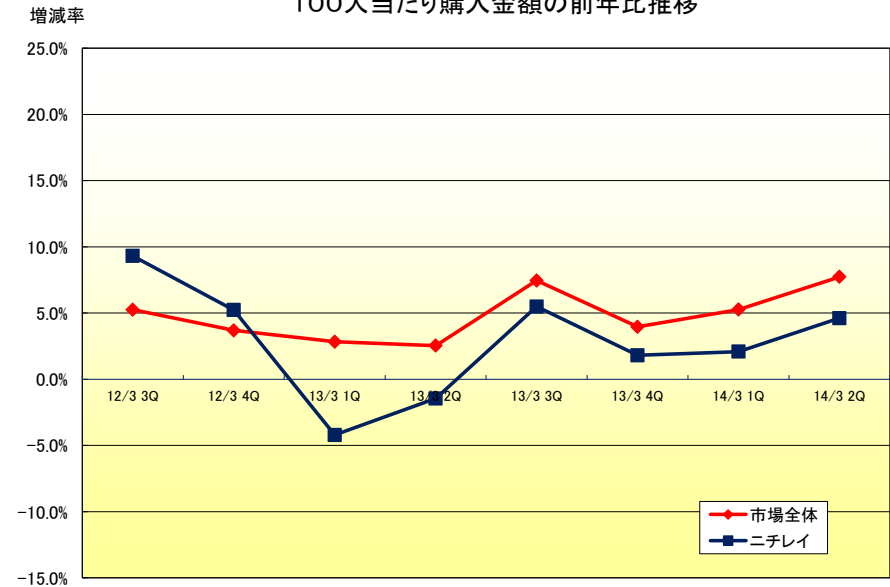
億円



当社の家庭用・業務用調理冷蔵の売上高前年比増減率推移

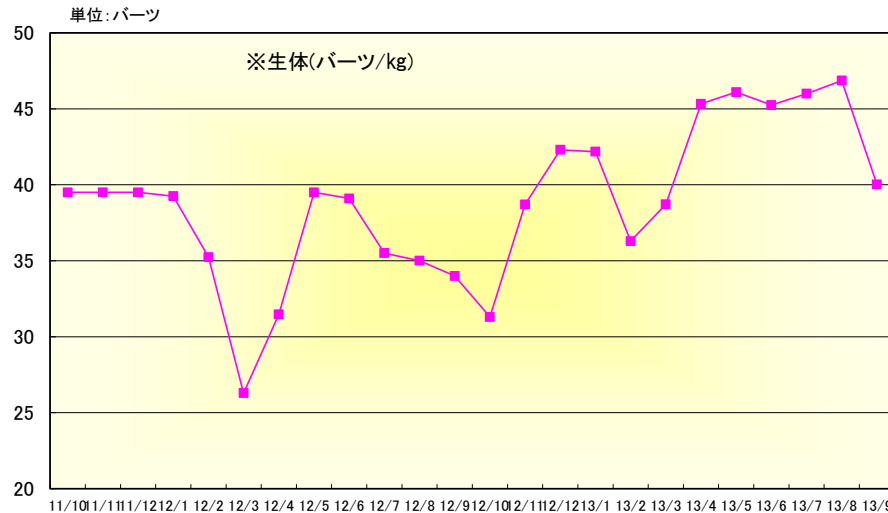


SCI -personal 家庭用調理冷凍食品
100人当たり購入金額の前年比推移



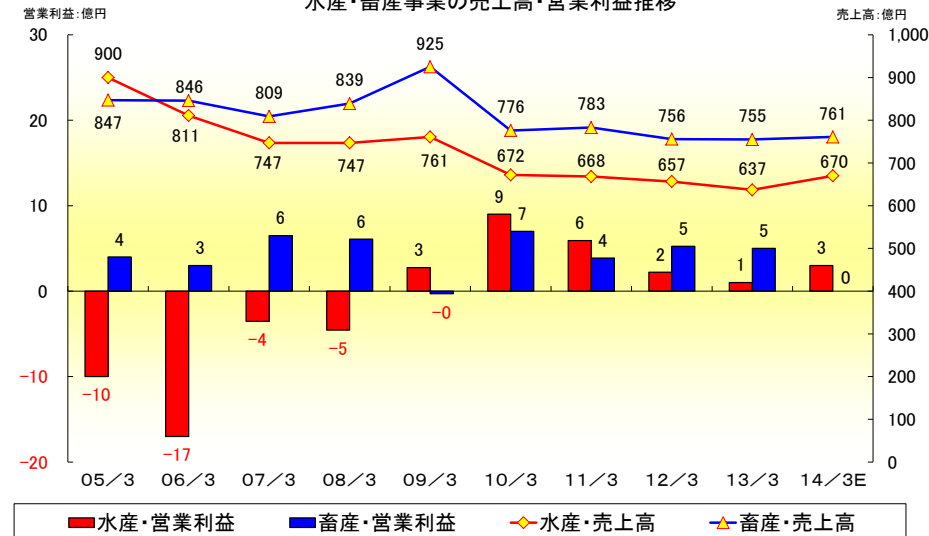
出典: インテージSCI-personal (冷凍調理 100人当たり購入金額の前年同期比。購入ルート=生協店舗を除く)

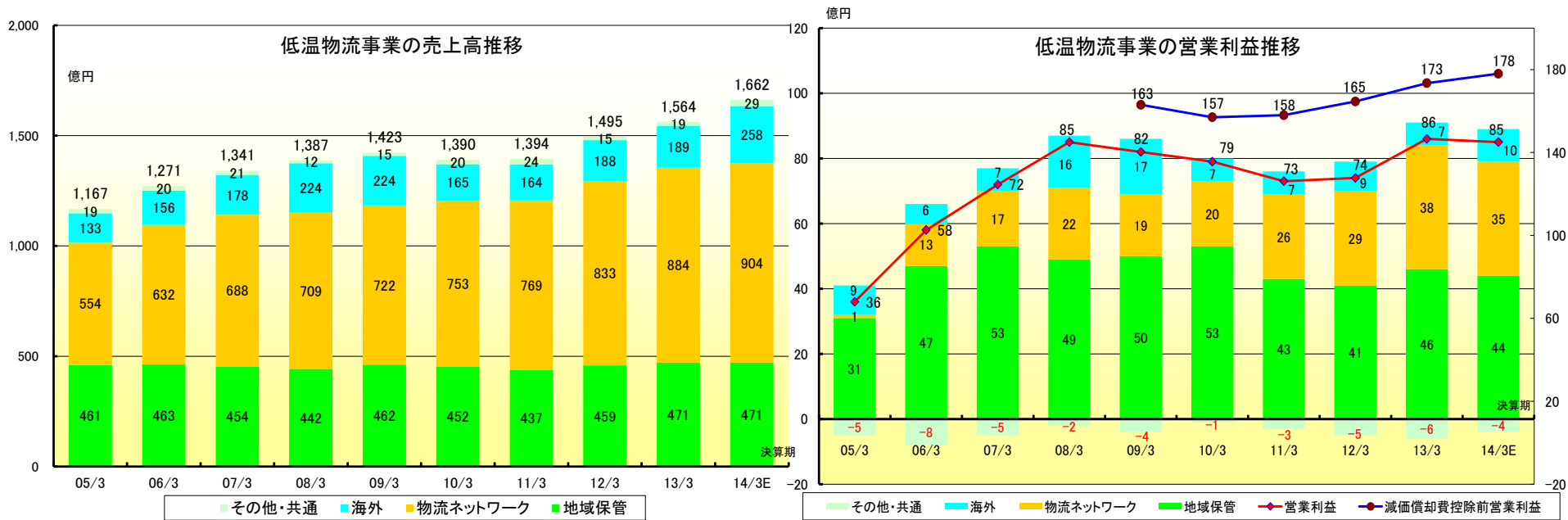
タイ国内鶏肉卸売価格の推移



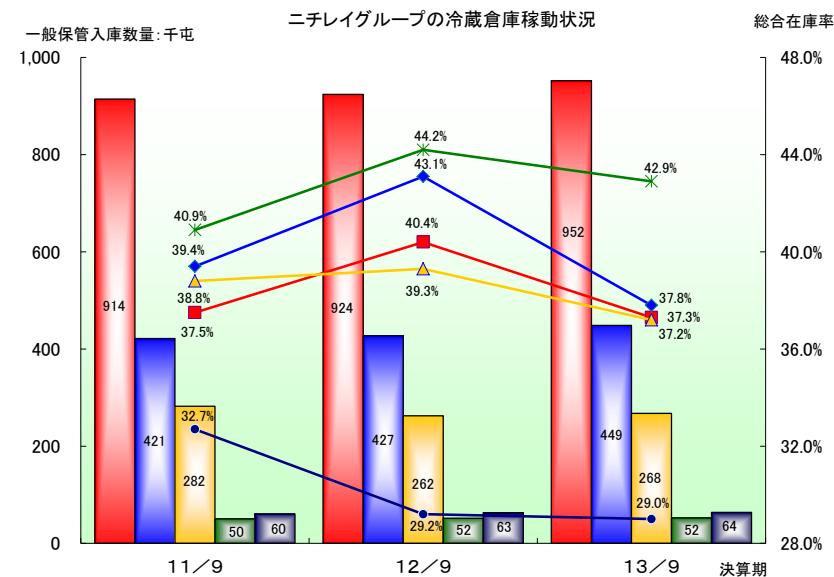
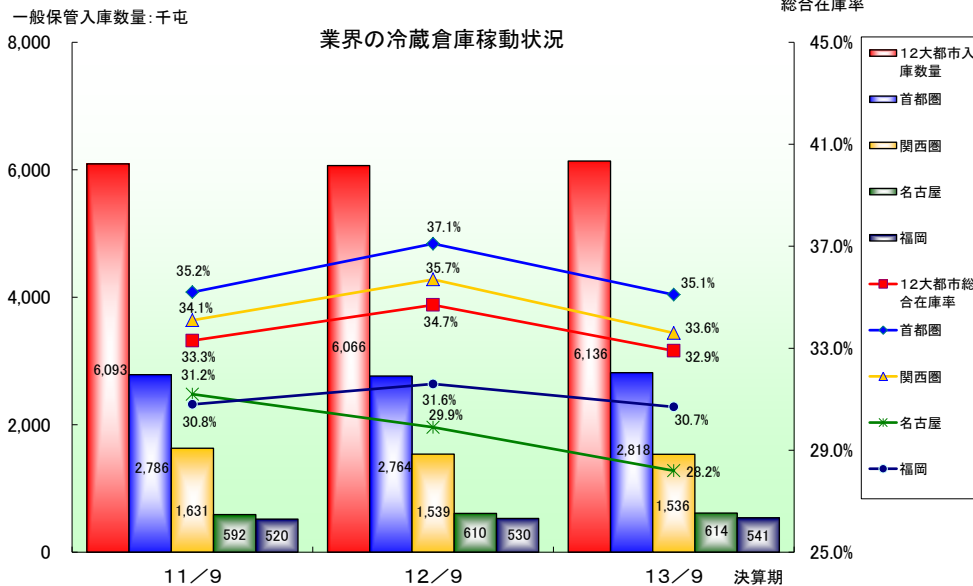
出典: (独)農畜産業振興機構(alic)発表のデータを当社が加工

水産・畜産事業の売上高・営業利益推移





冷蔵倉庫の稼働状況(業界は日本冷蔵倉庫協会資料を当社で加工)



注: 在庫率とは冷蔵庫内の全スペースにおいて貨物が占める割合を指す。スペースには通路や作業空間などの荷物が置けない空間が通常半分程度含まれる。

当資料取扱い上のご注意

当資料に記されたニチレイの現在の計画・見通し・戦略などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであります。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」その他これらの類義語を用いたものに限定されるものではありません。これらの情報は、現在において入手可能な情報から得られたニチレイの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。このため、これらの業績見通しの上に全面的に依拠して投資判断されることは、お控えいただくようお願いいたします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にニチレイが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます：

- ①ニチレイグループの事業活動を取り巻く経済情勢および業界環境
- ②米ドル・ユーロを中心とした為替レートの変動
- ③商品開発から原料調達、生産、販売まで一貫した品質保証体制確立の実現性
- ④新商品・新サービス開発の実現性
- ⑤成長戦略とローコスト構造の実現性
- ⑥ニチレイグループと他社とのアライアンス効果の実現性
- ⑦偶発事象の結果など

ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。また、リスクや不確実な要素には、将来の出来事から発生する重要かつ予測不可能な影響も含まれます。当資料は、あくまでニチレイをより深く理解していただくためのものであり、必ずしも投資をお勧めするためのものではありません。